

石州和紙のうちわが かつこいいい!

今、石州和紙のうちわが石州和紙会館の売り場に多数並んでいるのをご存知だろうか?石州和紙会館の開館以来、一番多くの種類を販売している。その石州和紙のうちわを紹介しようと思う。

まずは、かわひらが販売する房州うちわとのコラボレーションからのコラボレーションからできたうちわである。特徴は、南房州にある大名竹を骨に使っているということ。丸い持ち手であり、大変握りやすく、とても軽い。これらのうちわはサイズが大中小と3種類ほ

どある。値段は1080円から3240円(税込)。石州半紙を貼り付けたものや、白仙紙、藍染の石州和紙、柿渋を塗った石州和紙を貼り合わせたものが販売されている。特に小のうちわはとてもかわいいミニサイズで値段も1080円とお手頃だ。



房州うちわとのコラボレーションからできたうちわ



石州和紙久保田の「石州水うちわ」は、今年の新商品。

次に紹介するのは、最近発売されたばかりの石州和紙久保田が製造する「石州水うちわ」である。しかし、単なる水うちわではない。蓄光塗料をちりばめたりマーブリング模様を施した雁皮紙に天然ニスを塗り仕上げている。水うちわは水に浸してあおぐため体に水飛沫がかかり涼しくなり、また気化熱の作用(内水の原理)が働くこと

も、涼しさを強く感じられる理由の一つである。この「石州水うちわ」は、『第4回石州和紙うちわアート展』に出品中で、展示会場のアクアみすみのロビーでも見ることが出来る。値段は2700円(税込)。一本一本手作りである。一つとして同じものはない限定品である。このうちわでより涼しい夏を乗り切ってみては。

最後に紹介するのは、西田和紙工房が製造する「柿渋うちわ」。古来より柿渋は和紙に塗布されて、防虫効果、防水効果、強度が増すなどの理由で活用されてきた。柿渋を塗ることによって通常のうちわよりも強靭さが増し、時間の経過で風合いも出てくる。今は3種類ほど違っ

た形を販売しており、丸いもの、少し角のあるもの、長細いものがある。値段は1728円(税込)。他の柿渋製品同様、破れてもまた和紙を貼り、渋を塗ることによって更に味わい深いものになるという。本物でかつこいいい石州和紙のうちわを是非手にしてもらいたい。



少したわみがあり薄茶色で光沢のあるのが特徴的な「柿渋うちわ」。